

## 日本の巡礼

日本では、昔から伊勢や熊野の参宮が盛んに行なわれてきました。中世の皇族は 400 年間に 140 回の熊野参宮がなされ、とくに天永元年の白河天皇御幸は総勢 814 人でした。ちなみに、白河天皇の熊野御幸は 18 度、後白河上皇は 33 度も参詣されています。

わが国の寺院巡礼は、平安時代の中期から始まります。都が奈良から京都に移ってから、奈良のお寺が恋しくなったのでしょうか、東大寺、興福寺、西大寺、元興寺、大安寺、薬師寺、法隆寺を訪ね歩くという「七大寺めぐり」が行なわれるようになります。そして、西国三十三観音霊場が定められ、弘法大師の遺跡をめぐる四国八十八ヶ所霊場が開かれました。

やがて、坂東、秩父、北海道などにも観音霊場が開かれました。八十八ヶ所霊場では、知多半島、小豆島、篠栗などが有名です。その他に、「名古屋二十一大師」「淡路七福神」「大和十三仏」など、各種の札所が全国に創設されています。

このところ、巡礼の旅がブームになっています。多くの日本人は定年退職後の楽しみの一つとして、札所めぐりが選ばれています。また、小中学校の修学旅行では、昔から奈良や京都、鎌倉に人気があり、生まれて初めて仏像に出会うという生徒もあるようです。

名古屋は地理的にみて日本列島の真ん中にあります。それゆえに日本の各地を旅行するには非常に便利な位置にあります。そのためでしょうか、各地の霊場を訪れる割合は、全国的にみて名古屋近郊が圧倒的に多いようです。一般に、「大阪の食い倒れ」「京都の着倒れ」といいますが、名古屋は「なに倒れ」でしょうか？ 私は「行き倒れ」と答えています。それほどに名古屋人はデベソが多く、旅のおつきあいに悲鳴をあげています。

名古屋二十一大師霊場は、江戸時代から戦前までは名古屋城の周辺にありました。ところが、戦火によって寺院も焼失。現在のように市内全域に札所が再興されたのは昭和 44 年のことです。名古屋二十一大師は、市内遊覧を兼ねた名古屋版遍路です。車ならば一日でスタンプラリーができます。札所を何回にもわけて、市街地の風景を歩いて楽しむ人も多いようです。

名古屋二十一大師の第十八番札所が金龍寺です。初めてお参りをされる方は、7.8 メートルの十一面観音と、脇仏の五色不動明王の大きさにビックリされます。仏さまは頭を下げ合掌するものです。しかし、金龍寺の参拝者は口をあぐりあけて、やがて頭を下げます。